

国語 第2学年 かんそうをつたえ合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍『新編 新しい国語（令和6年度版）』の2月～3月配当を基にした授業案。教材本文・台詞・挿絵は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

がまくんとかえるくんの行動を確かめ、自分の経験と結び付けて感想をもつ。登場人物への好き嫌いにとどめず、待つことや相手を思うことをどの行動から感じたかを伝える。単元の終わりに残すのは、お手紙の感想カード。人物の行動、自分の経験との共通点や違い、そこから感じたことを記す。教材についての感想に加え、どの言葉をどう捉えたかが見える記録にする。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。
〔第1学年及び第2学年〕C 読むこと(1)オ	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。
〔第1学年及び第2学年〕C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。
〔第1学年及び第2学年〕C 読むこと(2)イ	イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。

単元の目標

誰の行動を述べた文かを確かめ、主語と述語の関係に気付ける。人物の行動と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合える。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①誰の行動を述べた文かを確かめ、主語と述語の関係に気付いている。 （〔知識及び技能〕(1)カ）	①「読むこと」において、人物の行動と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合っている。（C(1)オ・C(1)カ）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

東京書籍の年間指導計画による全12時間（読む12）。総時数は出典に従い、各時間の活動と本時の選定は本案の提案として組んでいる。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、人物と起こった出来事を確かめる。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	3～4	○二人の行動を場面ごとに読み、誰が何をしたかを文で確かめる。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○待っている場面と前の場面を比べ、印象に残った行動を選ぶ。	学習状況を見て支援する。
	7	○選んだ行動と自分の経験を結び付けて感想を考える。	学習状況を見て支援する。
	8 （本 時）	○場面と経験の関係を添えて感想を伝え合う。	思①（発言・学習記録）
	9～10	○友達の感想を聞いて読み直し、自分の感想カードを書く。	学習状況を見て支援する。
第3次	11～ 12	○カードを交流し、読んで感じたことの広がり振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）



本時の案

本時の目標：人物の行動と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合える。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「二人のどんな行動が印象に残りましたか。自分が待ったり相手のことを考えたりした経験と比べると、どう感じますか」 【めあて】がまくんとかえるくんの行動を確認、自分の経験と結び付けて感想をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・待つ時間の感じ方は、何を待っているかで変わりそうだ。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 （ 分）	○「二人のどんな行動が印象に残りましたか。自分が待ったり相手のことを考えたりした経験と比べると、どう感じますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・待つ時間の感じ方は、何を待っているかで変わりそうだ。 ・相手のために行動するところが印象に残る。 ・同じ場面でも友達とは思いついたことが異なる。	誰が何をしたかを主語と述語で確かめる。「物語での行動」と「自分の経験」を分けて書き、似ている点か違う点を説明する。手紙を受け取った経験がない場合は何かを待った経験でよい。 想定する難しさ：自分の経験を長く話し本文の行動と結び付かない。主語が省かれた文で人物を取り違える。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 人物の行動と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合っている。（発言と学習記録）
まとめ （ 分）	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・同じ場面でも友達とは思いついたことが異なる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態①（学習前後の記録と、見直した理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「二人のどんな行動が印象に残りましたか。自分が待ったり相手のことを考えたりした経験と比べると、どう感じますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考

えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

つまづきやすい所と手当て

難しさとして、自分の経験を長く話し本文の行動と結び付かない。主語が省かれた文で人物を取り違える。この場合は、誰が何をしたかを主語と述語で確かめる。「物語での行動」と「自分の経験」を分けて書き、似ている点か違う点を説明する。手紙を受け取った経験がない場合は何かを待った経験でよい。おおむね満足できる状況は、人物の行動と自分の経験を結び付けて感想をもち、友達と伝え合っているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

プリントの案

単元の学習メモ

お手紙の感想カード。人物の行動、自分の経験との共通点や違い、そこから感じたことを記す。教科書の文章・図は印刷せず、自分で確かめた箇所の見出しや、自分の言葉で内容を記す欄にする。

交流と見直しの記録

交流前の自分の考え、友達が伝えた言葉、その後の自分の考え、変えた又は残した理由を並べる。友達の考えに合わせることを求めず、判断の理由が分かるようにする。

出典：東京書籍 年間指導計画。教材名・配当時数・時期・重点項目の出典。(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_2_202401.docx)／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。原文は手元の公式表の写しと照合。(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価基準の観点と記録の考え方。(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

